

けいじばん

○次回活動日；6月19日（日）9時40分森林館駐車場集合、主な活動メニューはコナラ更新林整備、林内竹除伐、タケノコ狩り、保護植物調査など。携行品：下草刈鎌又は鋏、鋸、鉋、お椀。

○年会費納入；1,000円、郵便振替口座00160-1-578810、ちば千年の森をつくる会宛振込み下さい。

かつどうのきろく

5月22日（日）曇 参加会員20名、吉原洋先生

○シンボルツリー選定 10時～13時30分

選定目的；巨木林及び周辺の景観管理林約1.7haにおいて保護・育成する樹木を選定し管理する。選定した樹木を「選定高木」とし（花木や要保護の樹木も含む）その中から樹高や形状など特に優れたものを「シンボルツリー」とする。選定高木は管理番号を標示して保護・育成する。シンボルツリーについては管理番号及び樹木名を標示して保護・育成し、さらに定期的に観察・記録する。

選定作業；まず坂本代表から巨木林・景観管理林の整備計画や、選定対象となる落葉広葉樹の高木等について解説。高木化しているコナラも追跡調査し、スギ・モミ・ツガ等の針葉樹も邪魔にならない範囲で残すことなどを確認。続いて参加者全員が三班（1班；坂本班、2班；久我班、3班；長村班）

に分かれて、三つのエリアを分担して選定作業。選定の手順は

- (1) 各班はまず選定高木15本を選んで樹木に標示し、樹種や位置などを記録。
- (2) 三班全員が巡回して全ての選定高木（計45本）を確認。
- (3) 昼食をはさんで各班の代表が選定した木について推薦理由等を説明しながら参加者全員の挙手、多数意見によりシンボルツリー各班5本、全体で15本を目標に選定した。各班とも選んだ木への愛着捨てがたく、最終選考で予定本数を上回る選定高木31本、シンボルツリー18本を選定した。次頁に選定結果と長村選定委員長の講評を記載します。



この後小グループに別れ、次の活動を行った。

○植物観察会；吉原先生のガイドで約30種の樹木と林床植物を観察した。巨木林にキンラン開花2株。

4月29日発見し5月13日開花確認撮影したササバギンラン1株は花期の峠を越え頂上部分に3個の白花を残すのみでしたが多くの参加者が感動。

またマダケ林入口通路両側にスズタケ群落を確認。

4月10日以来「千年の森」植物観察会で確認した植物は通算144種。近いうちに「千年の森づくり事業報告書」記載の02年8月植物目録との照合リストを作成の予定。



[ササバギンラン 5/13]



[キンラン 5/22]

○コナラ更新林調査；15年秋伐採したコナラ更新林の萌芽と実生の生育状況調査を行った。調査結果は次頁。

○広場テーブル製作（2月木工活動の続き、手不足で未完成）

○トビの巣ヒナ観察（野鳥班・高橋会員）；4月29日、5月6日、13日、20日に続く5回目の観察撮影、2羽とも羽根に褐色を帯び、2日前に較べても、動きが目に見えて活発になってきた。相変わらず親鳥の監視が厳しい。

○ホテイチクたけのこ狩り；時季が早いせいか本数は少なく収穫もイマイチでした。6月のたけのこ狩りに乞うご期待。

○昼食にはホテイチク筍とサンショウの木の芽の香り豊かな若竹汁、デザートには定番となった新井夫人手作りのブランドケーキ抹茶入り、ご馳走様でした。

吉原先生ご指導と貴重なおみやげ；キキョウ・カワラナデシコの苗に畑のキヌサヤなど有難うございました。シンボルツリー選定も、各グループの班活動も充実の一日でした。3年目の「千年の森」はいよいよ大盛況。

選定高木とシンボルツリー (第1次選定 05/05/22)

選定高木	シンボルツリー
イタヤカエデ、イヌシデ、イロハカエデ、ウラジロガシ 2本、ウワミズザクラ、エゴノキ、オオモミジ、カクレミノ、クリ、シラキ、ニガキ、ハリギリ 4、ホオノキ 4、ヤマザクラ 9、ヤマボウシ 2、	イヌシデ、ウラジロガシ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エンコウカエデ、オオモミジ、クリ、ケヤキ、コナラ、スギ、スダジイ、ニガキ、ハリギリ 2、不明樹木 1、ホオノキ、モミ、ヤマザクラ

選定作業を終えて

シンボルツリー選定実行委員長 長村雅文

巨木林には何度も入っているが、多少主観的な好みも許される(?)シンボルツリー探しをして歩くと、樹木ひとつひとつに表情が感じられ、森全体にも一段と親近感がわいてくる。それもあってか選定の議論は白熱し、選定高木は合計31本、シンボルツリーも合計18本と予定本数より多くなってしまった。胸高直径50センチちかいヤマザクラは観察路にも近く、いかにもシンボルツリーに相応しい。また選定に異論もあったが、現状では巨木林最大と思われるスダジイや、針葉樹のスギ・モミなども選定された。更に樹種を同定できなかつたがシラキのような亜高木も補欠に選ばれた。

今後、今回の選定結果を資料としてまとめ、管理番号や樹木名を標示する。また、追跡調査の方法や目標林型の再検討などが課題となるであろう。

最後に樹種の同定について吉原先生のアドバイスに大変助けられたことを記し、感謝の意を表したい。

コナラ更新林調査結果

萌芽数変動調査 (4月と5月の比較)	NO1株 萌芽数 18本⇒17本 (▲1本)
	NO2株 萌芽数 20本⇒13本 (▲7本)
	NO3株 萌芽数 20本⇒16本 (▲4本)
芽生え数調査 (1×5mのプロット調査区) (葉が出た5月に初めて確認した)	NO1 18本
	NO2 8本
	NO3 20本

千年の森にふくらむ夢

新井克枝会員

久しぶりに参加しおどろきました。第1に森がとても明るくなったこと。第2に広場がすっかり整備され、テーブルがあつたり、荷物置き場や荷物掛けが作られたりと、集いの広場にふさわしい雰囲気ができあがっており、皆様の努力の跡が如術に現れていました。次に来るときにはもしかするとログハウスなんかができたりしてと、楽しさがさらに広がると期待がふくらみます。

第3に今回はシンボルツリーの選定ということで上の方ばかり見ていましたが、ふと足元を見ると、エビネ、ナルコユリ、ホウチャクソウなど貴重な植物が文字通り足の踏み場もないくらいに生えているではありませんか。キンランの輝くような色に感動し、イチヤクソウの今にも咲きそうな蕾に見とれたり、吉原先生の説明に聞き入ったりと時間のたつのも忘れるほどでした。なかでも驚いたのはカンアオイの群生している姿でした。とても他のところでは見ることは難しいものなのに、ここでは全く当たり前のように生えていることの何ともいえぬ驚き。

群生するカンアオイをみて、はっとひらめいた、それはギフチョウとカンアオイの不思議な関係です。以前読んだ日高敏隆さんの本に「山麓の雑木林に生えるカンアオイという草を食物にしているギフチョウもアゲハチョウの仲間である。カンアオイはまばらに生える小さな下草で、見渡す限りの大群落などというものは決してつくらない。ギフチョウの幼虫は一つの株を食い尽くすと地上を歩いて他の株へ移る。その間にいろいろな動物に襲われて食べられてしまう。だからギフチョウの数はごく限られている。その上カンアオイの葉の食べごろは春先だけである。だからギフチョウは1年に1回、春先だけに親のチョウが現れてカンアオイに卵を産み、幼虫はサナギで翌年の春まで眠っている。カンアオイは気むずかしい植物で、どこにでも繁茂するというものではない、しかも土地によってギフチョウの好みが違う、だから・・・各地で天然記念物扱いされている・・・」。と記述されていたのを思い出しました。これだけカンアオイがあるのだ、もしかするとギフチョウの幼虫がいるかもしれない。今にもギフチョウのすてきな姿に出会えるかもしれないとワクワクしてきました。今年だめでも、来年は・・・と夢がふくらみました。

真鍋さんのタケノコ入りみそ汁のおいしかったこと。ブランデーケーキ、喜んで食べていただきありがとうございます。材料のうち卵は卵白のみしか使っておりませんのでコレステロールを気にされている方もご安心ください。しかもいっさい添加物はありません。何かと食事に気を遣う世代、健康づくりに一役かも! またのお楽しみ。